

英國ロイヤル天文學會賞牌受領者

英國のロイヤル天文學會 (Royal Astronomical Society) は全世界の天文學會の中で最も權威あるもので、今より約一百年前、キリアム・ハルシエルを其の第一次の會長として成立した。其の創立の初めから、ひろく天文學會の功勞者を、毎年一人又は數人づゝ表賞するため名譽の賞牌を贈り、其の贈與の式場では會長自ら其の賞を贈られる學者の學業を演説することになつてゐる。過去一百年以上にわたり、かうして表彰された各時代の學者たちの名を見ると、それが全く天文學の進歩を物語つてゐるやうで興味は深い。

- 1823年 6月13日, C. ババジ — 金牌(計數表の印刷機の發明のために)
 J.F. エンケ — 金牌(エンケ彗星の研究に對し)
 C. リュムカー — 銀牌(1822年にエンケ彗星を再發見せしめ)
 J.L. ボン — 銀牌(1822年に二つの彗星を發見せしめ)
- 1826年 2月 7日, J.F.W. ハルシエル — 金牌(多重星の研究に對して)
 同 年 2月10日, W. ストルツフェ — 金牌(多重星の研究に對して)
 1827年 2月 2日, F. ベイリ — 金牌(2881個の星の表に對して)
 W.S. ストラトフォード — 銀牌(2881星の表の計算に對して)
- 同 年 2月 5日, M. ボイフォイ大佐 — 銀牌(木星の衛星の蝕の觀測研究について)
 1828年 1月11日, T.M. ブリスベイン — 金牌(パラマタ天文臺の創立及び觀測に對し)
 J. ダンロップ — 金牌(南半球の星雲の觀測に對し)
- 同 年 2月 4日, ミス.C. ハルシエル — 金牌(サリ・キリアム・ハルシエルの發見せる星雲の整理に對し)
- 1829年 1月 9日, W. ビアソン師 — 金牌(其の著「實地天文學入門」に對し)
 ベセル教授 — 金牌(天帶觀測に對し)
 シュマヘル教授 — 金牌(多くの天文表及びナハリヒテン誌發行に對し)
- 1830年 1月 8日, W. リチャドソン — 金牌(アベラシオン恒數の研究に對し)
 エンケ教授 — 金牌(新ベルリン曆表に對し)
- 1831年 1月14日, ケイタリ大佐 — 金牌(直立浮遊筒の發明に對し)
 ダモアソリ男爵 — 金牌(太陰論及び太陰表に對し)
- 1833年 1月11日, エアリ教授 — 金牌(金星と地球との長週變動の發見に對し)
 1835年 1月 9日, ジョンソン中尉 — 金牌(南天の606星の目錄に對し)
 1836年 1月 8日, サリ.J. ハルシエル — 金牌(Phil.Trans. に發表せる星雲目錄に對し)
 1837年 1月13日, ローゼンベルグ教授 — 金牌(ハレイ彗星の研究に對し)
 1839年 1月11日, J. ロテスリ氏 — 金牌(1318個の星の赤經目錄に對し)
 1840年 1月10日, J. プラナー — 金牌(其の著「月の運動の理論」に對し)
 1841年 1月 8日, ベセル教授 — 金牌(白鳥座61座の視差觀測及び研究に對し)
 1842年 1月14日, ハンゼン — 金牌(天文力學の研究に對し)
 1843年 1月13日, ベイリ氏 — 金牌(「カベンデシ法」により地球の平均密度の研究に對し)

- 1845年 1月10日, W.H. スミス大尉——金牌(Lベッドフォード目録⁷に對し)
1846年 1月 9日, G.B. エアリ博士——金牌(1750—1830年間グリニチにて觀測せる遊星の研究に對し)
1848年 1月14日, G.B. エアリ博士——賞狀(グリニチ天文臺の月の觀測整理に對し)
J.C. アダムス氏——賞狀(海王星の發見を導きし研究に對し)
アルゲランデル教授——賞狀(恒星目録に對し)
G. ビショップ氏——賞狀(天文學的發見を指導する天文臺の資金に對し)
G. エグエレスト中佐——賞狀(インデアン, アークの測定に對し)
サ1 J.F.W. ハーシエル氏——賞狀(南極氣象に關する事業に對し)
ハンゼン教授——賞狀(太陰論及び攝動の計算に對し)
M. ヘンケ氏——賞狀(二小遊星, アストロア, ヘベの發見に對し)
J.R. ヒンド氏——賞狀(二小遊星, イリス, フロラの發見に對し)
M.U.T.L. ヴァリエル氏——賞狀(海王星の發見を導きし逆攝動問題の研究に對し)
サ1 J. ラボック氏——賞狀(攝動理論の研究に對し)
M.M. ダイゼ氏——賞狀(ベツセル帶の恒星目録に對し)
1849年 2月 9日, W. ラッセル氏——金牌(赤道儀の完成並びに之に依る發見に對し)
1850年 2月 8日, M.O. ストローベ氏——金牌(歳差の常數に關する論文に對し)
1851年 2月15日, アンニバル, D, ガスパリス博士——金牌(三遊星, ヒゲイア, パルテノーブ, エゲイアの發見に對し)
1852年 2月13日, C.A.F. ビータリス博士——金牌(恒星視差及び章動の常數に關する論文に對し)
1853年 2月11日, J. ラッセルハインド——金牌(八遊星の發見, 並びにその他の發見に對し)
1854年 2月10日, M.C. ラムカ1——金牌(12000個の恒星目録とその他の業務に對し)
1855年 2月 9日, R.W.R. ド1ズ氏——金牌(天文學的業務に對し)
1856年 2月 8日, ロバート, グラント氏——金牌(L物理學的天文史⁷の著作に對し)
1857年 2月13日, M. シュワ1ベ——金牌(太陽黑點の週期に關する發見に對し)
1858年 2月12日, ロバートメエ1ン——金牌(協會紀要の彼の特輯に對し)
1859年 2月11日, R.C. カ1リントン氏——金牌(3735個の週極星のレッドヒル目録に對し)
1860年 2月10日, P.A. ハンソン教授——金牌(太陰表に對し)
1861年 2月 8日, M.H. ゴ1ルドシユミット——金牌(13個の小遊星の發見及びその他の發見に對し)
1862年 2月14日, ヴ1レン, D, ラル1氏——金牌(天文學研究, 特に寫眞術の應用に對し)
1863年 2月13日, アルゲランダ1教授——金牌(北天の研究に對し)
1865年 2月10日, G.D. ボンド教授——金牌(ドナチ彗星に對する業務及びその他の研究に對し)

光度明るい快速小遊星 (1933 HH)

南亞弗利加聯邦ヨハネスブルグに在るユニオン天文臺に於て、デヨンソン氏 (E. L. Johnson) がフランクリン・アダムス寫眞儀 (Franklin-Adams Star Camera) を以てフィンレイ彗星搜索中、偶然發見した小遊星は光度が明るい點と、速度の速い點で注意を惹かれてゐる。此の小遊星は 1933 HH と假りの名を與へられてゐるが、發見當時の觀測を記すと下の通りである。

萬 國 時	赤經(1925.0)	赤緯(1925.0)	光度
1933 四月22日12833	22時57分 4秒21	負 9度 9分10秒7	9.8等
24. 13187	23 1 12 90	負 8 40 4 2	9.8
26. 14199	23 5 21 84	負 8 10 38 4	9.8
27. 12888	23 7 23 89	負 7 56 8 8	10.0
五月 1. 13665	23 15 37 76	負 6 56 52 9	10.0

此等及び其の後のデヨンソン氏の觀測に依つて、カールステット博士 (A. Kahrstedt) が計算した軌道要素及び位置豫報は次の如くである。

軌 道 要 素		位 置 豫 報			
1933年五月8.0日(萬國時)		1933 年	赤經(1925.0)	赤緯(1925.0)	光度
$M = 259.0403$		六月1日0時(萬國時)	0時17分6	正0度55分	9.5等
$\omega = 98.5149$	1933.0	9 0	0 33 4	3 0	
$\Omega = 341.1686$		17 0	0 49 1	5 5	
$i = 7.1040$		25 0	1 4 7	7 10	
$\varphi = 8.1309$		七月3 0	1 20 2	9 14	
$\mu = 1550.297$		11 0	1 35 6	11 18	
$\log a = 0.239728$		19 0	1 50 9	正13 21	8.7

併しながら、此等の軌道要素は未だ不確實であつて、此れが修正には今後の觀測を待たなければならぬ次第である。

山本博士より第一信

十日間の航海も終わりました。これから上陸します。市街の背後に白い天文臺が見えてゐます、

五月二十二日

ビクトリヤにて 山 本 一 清

故中村要氏著 「反射望遠鏡の研究」

品 切

1932年天文年鑑

品 切

東亞天文協會事務室